

独立行政法人 国立高等専門学校機構 香川高等専門学校 次世代へ受け継ぐ外国航路船員の知識・経験 ～栗島海員学校 OB が語る船員の仕事と日常～

調査研究期間：平成28年2月1日（月）～平成28年6月30日（月）



【調査研究の内容・目的】

- 近年、若者の海に関する興味・親近感が薄くなっており、海に対する興味を持ってもらうきっかけが必要です。外国航路船員 OB の方々が当時撮影した写真には知識や経験が詰まっており、教材として有効な資料です。本調査研究ではこれらを調査し、海の学びに関する教材を作成しました。
- 船員 OB の方々が持つ写真資料を借り受けデジタルデータ化すると共に、資料提供者に取材を行い写真に関するデータ(年、国、船舶名、航路、体験談等)をデータベースに登録しました。これらをもとにスマホに対応した海の学び学習補助教材アプリケーションを製作しました。
- 臨場感ある教材により海や海の仕事に興味を持つきっかけを提供できると共に、アプリとして提供することで誰にでも学ぶ機会を提供できます。

1. 調査研究内容の詳細

【調査研究代表者】

- 藤井 宏行（独立行政法人国立高等専門学校機構 香川高等専門学校 講師）

【調査研究分担者】

- 宮田 克成（三豊市文書館 文書館専門員）

【実施計画】

- 1カ年計画1年目

【主な調査研究対象など】

- 船員OB所有の写真等資料のデジタルデータ化
- 借り受けた資料に関する情報の取材とデータベース化
- 乗船中の体験談の取材。原稿や動画としてデジタルデータ化
- データ化した資料を用いた教材アプリケーションの製作



船員OB所有の写真等資料は、当時の外国航路船を取り巻く様々な事柄を船員ならではの視点で撮影していることから、従来の教科書等の写真に比べ臨場感ある写真が多い。これを調査研究対象とし、海洋教育に利用することで、「海や船員の仕事への興味・親しみ」を生む教材の作成を目指した。調査として、まず三豊市栗島の元外国航路船員の方々に写真提供者を募り、写真を提供頂いた。（左図は提供された写真のごく一部）。写真の総数は約1450枚に上った。次に、これらの写真を確認しながら選別を行い、最終的にデジタルデータ化を行う1315枚の写真を決めた。データを一元管理できるよう、全ての写真に番号付けし、アルバムや写真の裏などに記載されている情報を記録し、データベースの作成を行った（右図は作業の様子）。この調査研究において集められた写真とそれに付随するデータより、従事していた仕事（雑貨の運搬や自動車運搬、捕鯨船など）や航路、船舶の名前や特徴や船内設備など、船員を取り巻く環境に関する様々な基本的データが明らかになった。これにより、船員OBが管理・記憶していた情報がデジタルデータとともに管理できるようになり、資料を教材として利用する際に系統立てて紹介することができるようになった。これにより、作成する教材が理解しやすい構成となり「効果的な海や船員の仕事を知り・親しむ」機会の提供を生み出すことが見込まれる。



船員 OB の体験談は、会社・経営側の視点からの記録が主である海運社史等とは異なる労働者の生の声であり、当時の生活・職務について詳しく知ることができる貴重な資料となり得る。調査は、写真提供者である船員 OB11 名への取材形式で行われ、写真に関するより詳細な情報（撮影年や航路、積み荷の内容等）に加え、当時の船内生活や労働、日本や諸外国の文化等様々な情報を収集した。これらの情報は、写真と関係ある情報に関してはデータベースに入力し、それ以外の情報はインタビュー音声から原稿を書き起こし、データとして保存した。取材内容より、家族を養うための手段として船員という職を選んだ現実や、船員が海や船に抱く大きな愛着、普段の仕事内容や紛争地帯での危険な仕事等、船員によって様々に異なる経験や考えを持っていることが明らかになった。これらを海洋教育に利用することで、海を労働と生活の場としていた人々の当時の思いや海に対する考えを知ることができる教材が作成でき、学習者を惹きつける面白みを持った学びを提供できると考えられる。



本事業で行ったデジタルデータ化により、写真および取材によって得られたデータを「仕事」、「風景」、「生活」、「寄港地」などカテゴリ別に検索でき、画像・資料データ・インタビュー内容を閲覧できる iOS・Android アプリケーション教材の作成を行った。これにより、場所を問わずアプリケーションによる教材配布が可能となり、遠隔授業を行う際にも学習者が理解しやすい講義が行えることが見込める。さらに世界中から教材アプリをダウンロードして自由に閲覧することが可能となり、興味を持った方が世界中どこからでも学習することが可能となる。また、本教材アプリは web ページと同じ言語で開発するため、印刷しテキスト教材として利用することも比較的容易に可能であり、近隣の出前講座向けにはテキスト教材として利用することも可能である。

なお、現時点ではカテゴリ別の写真閲覧機能のみを実装している。今後、年代別や航路別、特定の職種に関するデータを閲覧できる教材機能等、様々なアップデートを実施する予定である。

2. 本調査研究成果を基に計画・実施可能な 「海の学び」に繋がる博物館活動案

- 博物館活動の形態：船員 OB の写真をテーマとした写真展、商船高専向け導入教育、船員 OB によるワークショップ
- 実施時期：平成 28 年 7 月～12 月頃
- 実施場所：三豊市粟島、粟島海洋記念館、香川高専詫間キャンパス

【実施内容】

- 船員 OB の写真をテーマとした写真展
- 三豊市粟島船員 OB を講師に迎えた商船高等専門学校向け導入教育
- 船員 OB による一般学生（高専生、小学生）向けワークショップ
- 船員 OB による海の学びワークショップ

【他の博物館・機関や地域社会との連携や取り組み内容】

- 「かがわ里海大学」と連携、ワークショップの実施

【特に学校教育との連携について】

- 弓削商船高等専門学校への中継授業
- 香川県内の小学校と連携して行うワークショップ

【事業全体のまとめ】

近年、若者の海に関する興味・親近感が薄くなっており、海に対する興味を持ってもらうきっかけが必要である。本事業では、外国航路船員 OB の方々が所有する当時の写真が海の学び教材として有効な資料であることに注目した。調査研究として船員 OB の方々から写真を提供頂き、デジタルデータ化するとともに、このデータを利用した海の学びに関する教材アプリケーションを作成した。

本事業により、船員 OB が従事した様々な職務や船舶、航路などに関する基本的なデータ、船員 OB がそれぞれの職務において経験した様々な経験が明らかになった。また、船員 OB が所有・記憶していた資料や情報が一元管理できるようになり、海上輸送に関する基本的情報を系統立てて掲載するとともに、海を労働と生活の場としていた人々の当時の思いや海に対する考えを知ることができ、学習者を惹きつける面白みを持った教材を作成できた。さらに作成した教材はアプリケーションであることから、興味を持った方が世界中どこからでも学習することが可能である。これらのことから、一般向けの基本的な海洋教育から海事教育機関向けのやや専門的な海洋教育まで幅広く利用でき、さらに多くの人々に海について学ぶ機会を提供できることが見込まれる。

主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 三豊市文書館	資料の選定、保存、管理
2. 三豊市	取材者への調整、会場の提供

主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. NHK 総合・高松放送局 ゆう6かがわ	特集・粟島の船員記録、2016年3月31日(木)
2. NHK 総合 NHK ニュースおはよう日本	“瀬戸内海から世界へ”元船員の記録を後世に、2016年4月11日(月)
3. 四国新聞朝刊	粟島船員の歩みアプリに、2016年5月24日(火)

以上